

# 県中教研社会科部報

No. 5 1

発行所 福島県中学校教育研究会社会科研究部  
 発行人 神野 與  
 発行 平成 30 年 3 月 1 日

## 内 容

- 平成30年度以降の研究主題・副主題の解説…………… 2～4
- 県中教研会津大会を終えて…………… 5
- 県中教研会津大会に参加して…………… 5

### 魅力ある社会科の授業作りについて

福島県中学校教育研究会社会科専門部長 神野 與



昨年10月11日開催された平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会社会科部会兼第54回東北社会科教育研究協議会福島大会においては、県内はもとより、東北各地から会員の皆様をお迎えし、公開授業と研究協議会を無事開催することができました。これもひとえに、板橋健一校長先生を中心に、両沼支部・北会津支部・耶麻支部・南会津支部の社会科の先生方が、準備の段階から協力して熱心に取り組んでくださったことによるものです。心より御礼申し上げます。大会当日の公開授業において、生徒たちが生き生きと学習に取り組む様子が素晴らしかったです。新鶴中の真壁敬司先生、坂下中学校の笹川英俊先生、本名輝彦先生、授業提供本当に有り難うございました。

さて、平成30年度より研究主題が新しくなります。昨年の夏に各支部から寄せて頂いた主題案を県の事務局で検討し、福島地区の役員で土台になる案を作りました。その後、各支部長さんにお知らせして1月

の支部長会で検討し決定しました。「主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうすればよいか」が新しい主題です。めまぐるしく変化する社会情勢や選挙権年齢が18歳に引き下げられたこと等に対応していくためにも時宜を得た研究主題であると考えます。

最後になりますが、中教研社会科専門部において、何よりも大切にしていかなければならないことは、日々の授業作りのために役に立つ組織であるということです。そのためには、社会科部報をよりどころにしながら授業研究を進めて各支部で実践を共有していくことが必要です。トップダウン的に上から下りてくる研究よりも、授業実践を積み重ね、成果や課題を共有しながら進めていくボトムアップ的な研究のほうが、生徒にとって魅力ある授業作りができると考えます。今後は教材研究や教材開発にも更に力を注ぎながら、生徒の「なぜ？どうして？」という疑問を大切にしながら魅力ある社会科の授業作りをしていくことを心から願っています。

### 平成29年度福島県中学校教育研究会社会科研究部組織一覧

部長 神野 與 副部長 大木 修・家久来 三典・板橋 健一・荒木 清隆・大和田 一成						
支 部	支部長名	勤務校	支 部	支部長名	勤務校	
福 島	神 野 與	信 陵 中	北 会 津	馬 場 勇	大 戸 中	
伊 達	大 木 修	醸 芳 中	耶 麻	小 島 靖	山 都 中	
安 達	鈴 木 豊	大 玉 中	両 沼	板 橋 健 一	坂 下 中	
郡 山	家久来 三典	三 穂 田 中	南 会 津	藤 井 義 朗	檜 枝 岐 中	
岩 瀬	阿 部 裕 好	湯 本 中	相 馬	荒 木 清 隆	小 高 中	
石 川	竹 島 孝	須 釜 中	双 葉			
田 村	早 川 俊 也	船 引 南 中	い わ き	大 和 田 一 成	小 名 浜 二 中	
東西しらかわ	星 喜 博	東 北 中				
事務局 総務 幕田 秀明(附属中) 庶務 樋上 聖(仁井田中) 会計 小松 拓也(附属中)						

## 研究主題及び研究副主題の解説

### 1 研究主題及び研究副主題

#### 研究主題

**主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうか**

#### 研究副主題

平成30年度 **「社会的な見方や考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる授業の工夫」**

平成31年度 **「社会的事象について、根拠を基に説明する力を育てる授業の工夫」**

平成32年度 **「協働的な学びを通して、考えを深めさせる授業の工夫」**

### 2 今までの研究の成果と課題

これまでの3年間の研究では、「社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうか」を研究主題に、各年次ごとに副主題を設定して研究実践を行ってきた。その結果、以下のことが確認された。

#### 研究1年次

**「社会的事象を多面的・多角的にとらえさせる指導の工夫」**

- 社会的事象のもつ側面を理解し、異なった立場から考察して問題解決を図る授業を展開することで、多面的・多角的に追究することができた
- 生徒が様々な立場や視点で考えられるように、ICTの活用や教師の意図的な班編成を基にした話し合い活動を行うことで、社会的事象を多面的・多角的にとらえることができた。

#### 研究2年次

**「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」**

- 様々な立場で追究したり、複数の視点から考察して判断を迫ったりするような学習課題の設定が、思考・判断する力を高めるのに有効であることが明確になった。
- 生徒が根拠となる情報を解釈し、関連付けて、自分の考えを選択、決定する活動を繰り返すことで、思考・判断する力を高めることができた。

#### 研究3年次

**「表現する力を高める指導の工夫」**

- 自分の意見や考えを他者と協働して深め、根拠を明確にして論理的に表すことを重ねることで、表現する力を高めることができた。
- 振り返りの時間を確保し、自分の考えの深化や変容を実感させるために、伝え合ったり記述したりすることで、表現する力の高まりが見られた。

3年間の研究実践を通して、以上のような成果とともに新たな課題も確認された。

- 授業を通して、主体的に社会の変化に立ち向かうために必要な力を、より実践的に身に付けさせるための研究を続ける必要がある。
- 協働的な学習によって、課題解決を図るための効果的な学習形態や学習方法について研究を続ける必要がある。
- 生徒が根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現することができるよう構造的な板書指導の在り方やノート、ワークシートの形式等についての研究を続ける必要がある。

### 3 平成30年度からの研究主題の設定について

#### (1) 今までの研究の取り組みから

社会の変化に立ち向かう力を育成するために、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠をもとに自分の考えをもち、他者と協働して課題を解決するための多様な方法が確認された。課題としては、学んだことと実際の社会との関連付けを図り、主体的に行動するための手だてについて研究を続けることなどが挙げられた。主体的・対話的で深い学びを通して、学んだことと現実社会とのつながりを見出し、そこから新しい価値を生み出すような力を育むための取り組みが必要である。

#### (2) 時代の要請から

高度情報化やグローバル化など急激な社会変化の中で、生徒に未来の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けさせることが求められている。そのために、「どのように学ぶのか」という、学びの質や深まりを重視することが必要である。課題について、一人一人が自分の考えをもって他者と対話し、考えを比較したり関連付けたりして統合し、よりよい答えや価値を創り出す力、さらに次の問いを見付け、学び続ける力を育成することが求められている。

#### (3) 各支部の意見から

生徒が、主体的・対話的で深い学びを通して、社会参画や持続可能な社会づくり、社会との関わりを実感できるような指導について研究を進めたいという意見が挙げられた。その中でも特に、よりよい社会を形成していくために、生徒の社会参画に関する力を育みたいという意見が多く出された。

以上のことを踏まえ、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成するための研究を進めていこうと考えた。社会的事象に興味・関心をもち、自らの考えを基に他者と協働して、答えや価値を創り出す力を育む中で、よりよい社会の形成に主体的にかかわる態度を生徒に育みたい。

4 研究主題について

(1) 「社会の形成」について

選挙権年齢が引き下げられたことで、中学3年生は、3年後に選挙権を行使できる。良識ある主権者として、これからの社会を創り出していく生徒たちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り拓いていくことが強く求められている。特に本県においては、東日本大震災以降「復興の担い手」としての人材育成が求められている。そのため、将来の活躍が期待される中学生が、よりよい社会の在り方や未来について主体的に考え、社会に関わろうとする態度の育成が必要不可欠である。

(2) 「参画しようとする態度」について

参画とは、「事業・政策などの計画に加わること。」(広辞苑)とされている。中学生段階では、授業を通して、学んだことと社会とのつながりを感じたり、他者とともに課題解決に取り組んだりすることで、社会の成り立ちや仕組みなどを理解し、主体的に社会へ参加する姿勢や多様な意見を尊重し合いながら協働的に問題解決を図る姿勢を育む必要がある。

「主体的に社会の形成に参画しようとする態度」には、下記のような内容も内包するものとして研究を進める。

- ① よりよい社会の形成に主体的に関わる意欲
- ② 社会の現状や変化を正確に把握する力
- ③ 問題を分析し、価値判断する力
- ④ よりよい社会をめざし提案する力

①～④の他にも様々な内容が考えられるので、各支部で検討してほしい。

②が主に1年次、③が主に2年次、④が主に3年次の研究となる。①は3年間共通して取り組む研究となる。

5 研究副主題について

(1) 平成30年度(研究1年次)

社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる授業の工夫

主体的に社会の形成に参画しようとするためには、まず社会的な見方・考え方を正確に把握する必要がある。そこで、どのような視点で物事をとらえ、どのような方法で思考していくのかという社会的な見方・考え方を養う。見方・考え方を学びの過程で働かせることで、生徒の学びが深まる。それを基に、自分と社会を結び付けて考えたり、社会と関わる方法を見出したりすることで学んだことと社会とのかかわりを実感することができる。

1年次は、社会の現状や変化を正確に把握する力を育みたい。

(2) 平成31年度(研究2年次)

社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる授業の工夫

主体的に社会の形成に参画しようとするためには、1年次の研究を基に、問題を分析、価値

判断し、自分の意見や考えを構築することが必要である。その際、一時の感情や思い付きではなく、根拠を基に論理的に説明できるようにしたい。そのために、社会的な見方・考え方を多面的・多角的にとらえ、どのような方法で表現し、説明したら相手にわかやすく伝わるかについても考えさせる。

2年次は、問題を分析し、社会的な見方・考え方を、根拠を基に論理的に説明する力を育みたい。

(3) 平成32年度(研究3年次)

協働的な学びを通して、考えを深めさせる授業の工夫

主体的に社会の形成に参画しようとするためには、1・2年次の研究をふまえて、自分の意見や考えを深め、それらを伝えたり提案したりする力が必要である。そこで、生徒に協働的な学びを通して、社会的な見方・考え方を考察させる。意見や考えが異なる相手と自分の意見や立場を明確にして話し合うことでお互いの考えを比較したり、関連付けたりして、よりよい考えを提案するための練り上げを図る。また、まとめの場面で、自分の意見や考えの変化や深化を振り返ることで、自分と社会的な見方・考えとのかかわりや自分と他者との関わりを再認識し、社会参画のためのよりよい提案や発信につなげる。

3年次は、多様な価値観をもつ人々のなかで、自分の考えを表現したり、他者と合意形成を図ったりする過程で、よりよい考えや新たな価値を提案する力を育成したい。

6 研究1年次の副主題の解説

(1) 「社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる」について

① 「社会的な見方・考え方」について

見方・考え方は、教科の本質であり、社会的な見方・考え方を働かせることとは、社会科の目標である公民としての資質・能力を育成することにもつながる。

授業では、どのような視点で物事をとらえ、どのような方法で思考していくのかという問いの精選、資料の活用、学習形態の工夫が重要となる。生徒は、問いや資料を基に調べ社会的な見方・考え方を理解し、様々な方法で考察したり構想したりすることで正確に把握することができる。ただし、ある視点に着目した問いや資料を提示しても、とらえ方や予想は生徒一人一人異なる場合がある。そのために、教師が多様な問いを想定したり資料を準備したりすることで、生徒の主体性を大切にしたい。

② 「社会との関わりを実感させる」について

生徒が社会的な見方・考え方をとらえる際に、果たしている役割や事象相互の結び付きなども視野に、様々な側面や角度から考察させる。

また、「それらをどのようにとらえるのか」、「それらとどのように関わるのか」、「それらにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で、課題の解決に向けて、自分の意見や考えをまとめることを通して、社会科で学んでいることと社会との関わりを実感させたい。

**(2) 「社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させる」ための手だてについて****【導入の場面】**

- 生徒のレディネスを把握し、学習課題につなげるよう、また学習の見通しがもてるよう工夫する。
- 自ら追究したい、追究すべきだと考える課題を設定する場面を設ける。
- 学習課題に対する自分の予想や考えをもたせ共有できる場面を設定する。

**【課題追究の場面】**

- 見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察することができるような資料提示を行う。
- 追究の視点を生かした考察に向かう問を精選する。
- 考察したことを伝え合う中で比較したり、関連付けたりして自分の考えを練り上げる場面やその方法を工夫する。

**【振り返りの場面】**

- 自分の考えの変容や深化を振り返る場やその方法を工夫する。
- 他者の考えとの違いや他者の考えの良さに気付いて、発表したり共有したりする場面や方法を工夫する。
- 評価規準に基づいた生徒の自己評価・相互評価などの多様な評価方法を工夫する。

各場面で、社会的な見方・考え方を働かせ、社会との関わりを実感させるための手だてを有効に働かせるために、生徒の学習状況を的確に把握し、一人一人の個性を生かすことを大切にしていきたい。また、思考を促しながら課題を解決できるように教師が生徒の意見や考えをコーディネートすることも意識したい。

**(3) 研究1年次の授業を構築する際のポイントについて**

実際の授業づくりでは、以下の内容を意識したい。また、各支部の実態に応じて取り組み、副主題に迫りたい。

**【導入の場面】**

- 複数の視点や立場から追究する学習課題
- 生徒のもっている見方や考え方を揺さぶるような学習課題
- 地域の身近な課題など、生徒にとって学ぶ必要感や切実感が感じられる学習課題

**【課題追究の場面】**

- 教師による資料の提示
  - ・複数の視点から考察して、比較できたり、関連付けたりすることができるような資料
  - ・今までに学んだ知識や固定概念を揺さぶるような資料
- 生徒による資料の収集、選択
  - ・複数の視点や立場から比較して考えたり、複数の事象を関連付けて考えたりできる資料
- ICTを活用した資料提示や考察
- 追究の視点を焦点化したり、広げたりする問い
- ペア、グループ、学級全体での活動による考察
- 付箋紙やホワイトボードを活用した話し合い活動による考察

**【振り返りの場面】**

- 自分の考えの変化や深まり、話し合いの内容などを記述したノートやワークシートの活用
- 学びの過程を振り返ることができるような板書の構造化
- よりよい社会づくりを目指して、学んだことと実際の社会とのかかわりを感じられるようなまとめ方

**7 1年次の研究計画と研究分野****(1) 研究計画**

- ① 主題研修会（5月上旬 郡山市内中学校）
  - 主題・副主題の確認
  - 研究内容・方法の確認
- ② 主題研修報告会（5月末日まで 各支部）
  - 主題研修会の報告
  - 支部研究計画の立案
- ③ 支部研究協議会（7月下旬まで 各支部）
  - 研究実践の経過報告
  - 以後の研究の進め方の確認
- ④ 県研究協議会いわき大会（10月）
  - 公開授業（いわき市立植田中学校）
  - 代表支部の研究発表と協議
- ⑤ 県大会報告（10月～11月 各支部）
- ⑥ 研究部報第52号の発行（3月）
  - 本年度研究のまとめ
  - 次年度副主題の解説

**(2) 研究分野**

- 1年生 } 各自が地理的分野と歴史的分野の  
 2年生 } いずれかを選択  
 3年生 … 歴史的分野、公民的分野

**《参考文献》**

- 「中学校学習指導要領解説社会編」文部科学省 日本文教出版  
 「公民的資質とは何か」唐木 清志 東洋館出版社  
 「見方・考え方 社会科編」澤井 陽介 加藤 寿朗 東洋館出版社  
 「社会科重要語句300の基礎知識」森分孝治 片上宗二編集 明治図書  
 「新版社会科教育事典」日本社会科教育学会編集 ぎょうせい

「平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会を終えて」

両沼支部長 板橋 健一

今回の会津大会は、東北大会を兼ねることが決まっております、どのように進めればよいのか五里霧中でのスタートとなりました。それにしても「東北各県からの先生方をお迎えするとなれば恥ずかしい授業はできない。」と授業者や研究推進委員のプレッシャーは相当なものだったと感じます。

授業準備に関しては、会津地方4支部から代表を集め、研究推進委員会を組織し「オール会津」で取り組みました。また、授業づくりの相談役を社会科教育に造詣の深い宮川小校長佐藤明先生にお願いし、先生の歯切れのよい的確なご指導を得ながら、表現する力を高めるため「トゥールミンモデル」「マトリックスシート」「ブ

レインライティングシート」等を導入し、徹底的に議論を重ね授業を創って参りました。参加者の皆さんからは、お褒めの言葉だけでなく、手厳しいご意見も頂きましたが、それも私たちへのエールと受け止めています。今大会で話し合われたことを土台として、各支部で更に研究が深められるものと期待しております。

最後になりましたが、神野與専門部長様をはじめ、事務局、指導助言の先生方、授業並びに会場を提供いただいた坂下中、新鶴中の先生方、研究推進のためにご協力いただいた会津各支部の先生方、そして遠方東北各県からおいでいただいた先生方、各支部の先生方のご理解とご協力により、本大会を成功裏に終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

「平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会に参加して」

福島市立大島中学校 成田 有策

今回の会津大会に参加させていただいて最も強く感じたことは、会津地区の先生方の今大会に対する熱い思いです。広範囲にわたる地区ながら、オール会津で事前の研修、準備そして運営に取り組みされてきた様子が随所に散りばめられた素晴らしい大会だったと思います。

公開授業においては、研究副主題「表現する力を高める指導の工夫」に迫るために、「協働的な活動」、「他者や資料との対話を通して見方や考え方を深める」、「協働して、よりよい合意形成を図る工夫」、「よりよい社会の提言に踏み込む」等の手だてが講じられた授業実践がなされました。私が参観させていただいた公民の授業

では、会津坂下町の住民として推進したい政策について、活発に議論する生徒たちの生き生きとした姿がとても印象的でした。

研究協議会では、今大会が第54回東北社会科教育研究協議会も兼ねていることから、本県各支部の代表だけでなく、東北各県代表の先生方の発表を聞くことができました。新指導要領を見すえ、「社会的な見方・考え方」等についての活発な議論がなされ、とても勉強になりました。

目まぐるしく社会情勢が変化する中、社会科教師自身が先生方と協働して授業のあり方について追求していかなければならないと実感できた県大会でした。

各支部代表の参加分科会配当表

		福島	伊達	安達	郡山	岩瀬	石川	田村	し東 ら西 かわ	北 会 津	耶 麻	両 沼	南 会 津	相 馬	双 葉	い わ き
30	地理	○	○				○	●	●	○		○		○		○
	歴史		●	○	○	●		○	○	○	○	○				
	公民	○		●	●	○	○				○		○	○		○
31	地理		○	○	●	○		○			●	○		○		○
	歴史	○		○	○		○		○	●			○	○		●
	公民	●	○			○	○	○	●	○	○	○				
32	地理	●		○	○	○	○		○	○	○		●			
	歴史	○	○			○	●	○			○	○		●		○
	公民		○	○	○			○	○	○		●		○		●

● = 発表      ○ = 参加      □ = 県大会開催地区